



ふるさと創生事業の一つとして始

まった「物語のあるまちづくり」事業。これは自作・自演の創作芝居を通して、地域づくりのプログラム物語を策定できる人材を育成し、地域の活性化を図ろうというユニークな取り組みである。

その事業の中心となる「物語のあるまちづくり実行委員会」が活動を開始したのが平成二年六月。職業・年代・性別を超えて二十名余の有志たちが集まった。

メンバーはまず、七月頃から勉強会を開き、町の歴史を学び、その中から演劇の題材にふさわしいものを

ピックアップし、検討・討論を重ね

八月には大筋の内容を決定。その後

十月中旬頃までに脚本の執筆を終え

本格的な練習に

とりかかった。

芝居のタイトル

は「水、流れざ

れば」。江戸時代

の町の史実に基

いた創作劇であ

る。内容は次の

とおり。

寛永二年（1

624）牛沢組

四十四ヶ村及び

端郷九ヶ村の郷

頭に任命された

佐原光重は、

常々領民の窮乏

を打開し、地域

の繁栄を図るた

め水田の開発を

念願していた。

そのため、低い湿地から高台にある

水田まで水を流す用水路「牛川堀」

の築造を立案。しかし着工寸前になっ



芝居を通じ歴史や伝統を見つめ直し、 新しい町づくりの。パワーに昇華したい。

地域づくりのプログラム（物語）を策定できる人材の育成を目指す「物語のあるまちづくり」事業。自作・自演の創作芝居に取り組み中で、地域づくりのあるべき姿を模索しつづけている。